

## 令和元年度 東条中学校 学校評価（年間）

4・・・よくあてはまる    3・・・ややあてはまる    2・・・あまりあてはまらない    1・・・まったくあてはまらない

※生徒・保護者の評価結果は、生徒・保護者アンケート質問項目にもとづいたものです。

評価の観点	評価項目	実践目標と成果		評価		
生きてはたらく学力	基礎基本の 確実な定着・学びに 向かう力	実践目標	生徒が「学習の見通し」を持って粘り強く取り組み、自らの学習活動を「振り返り」、次につなげようとする授業を実施する。	教職員	生徒	保護者
		成果	「振り返り」の時間を設けノートに書いたり、「学んだこと」を発表したりすることで、自らの学習活動を見つめるきっかけができた。	3.2		
		課題と方策	日々の授業が、生徒の主体的な学習活動となるために、教材研究の中で授業展開の工夫・改善を積極的に取り組んでいく。			
		教職員は(学校は)、授業のはじめの「ねらい」や授業展開での「学習の見通し」、授業おわりの「振り返り」のある、わかりやすい授業を工夫している。			3.4	3.3
	思考力・判断力・表現力の育成	実践目標	「何を学ぶか」「どのように学ぶか」の視点に立った授業改善を図る。	教職員	生徒	保護者
		成果	黒板に「学習課題」や「学習のめあて」のカードを張り、学習の目標を明確にしたことで、生徒が主体的に学習しやすくなった。	3.3		
		課題と方策	校内授業公開を通じて、生徒が主体的に学ぶような授業展開を研究していく。			
		教職員は(学校は)、ペアやグループでの学習も取り入れながら、より深く考えたり意見を交換したりするような指導をしている。			3.4	3.5
他を思いやり、互いに高め合う心	体験活動等の充実	実践目標	発達の段階に応じたキャリア教育を計画し、事前事後指導を充実させ、体験活動を通じて自分の役割を認識させ自己有用感を育てる。	教職員	生徒	保護者
		成果	1年生は、東条の匠を経験し匠の技術を学ぶことができた。2年生は、トライやるウィークで具体的に社会で役立つ学習ができた。3年生は、進路に向けての心構えや働くことの大切さを学習し、自己の将来について考えることができた。	3.8		
		課題と方策	中学3年間を通してキャリア教育を研究するために、東条中学校のキャリアノートを作成しているが、その活用とともに、学年の行事等との兼ね合いや、連携について検討していく必要がある。			
		教職員は(学校は)、生徒の役割を与えたり、事前事後も含めて達成感を味わえたりするような体験活動指導をしている。(体育祭・文化祭・「トライやる・ウィーク」・わくわくオーケストラ・スキー教室等)			3.7	3.6
	道徳教育の充実	実践目標	より自分の問題として「よく考え」自分の考えをより深めていくために、級友と「議論する」道徳の授業(公開)を実施する。	教職員	生徒	保護者
		成果	一人一授業や学年の中でのローテーション授業、事後研修を通して、授業力向上を図った。	3.0		
		課題と方策	指導案検討会や生徒が自主的に議論できるような授業の展開を行うための方法を今後も教員間で議論する。			
		教職員は(学校は)、「私たちの道徳」等も活用しながら、級友等と論議することで、豊かな心の育成するための指導をしている。(道徳ローテーション授業・休業中の親子での道徳等)			3.5	3.4
	読書習慣の確立	実践目標	学校図書館を充実させ、家庭や地域と連携して読書習慣を身につけさせる。	教職員	生徒	保護者
		成果	朝読書の時間により、全校生徒が読書に親しむ時間を確保できた。また、読書コンクールを実施することで、より読書習慣の徹底を図った。	3.1		
		課題と方策	図書室に来室する生徒の幅を広げるための呼びかけを行う。地域図書館と連携しての「お届け図書」の検討。			
		教職員は(学校は)、図書学習部委員の活動を支援したり、朝読書や家読書を支援したりしている。(図書館の本の各学級への貸出、図書室開館、お話しくまの子読み聞かせ会等)			3.3	3.3
健康な心身安全意識	健康や体力の増進	実践目標	前年度の新体力テストの分析結果に基づく体力づくりを授業や部活動を通して実施し、体力・運動能力の向上に努める。	教職員	生徒	保護者
		成果	体育の授業や部活動を通して、体力づくりに努めた。特に体育の授業では、柔軟運動を中心に取り組んだ。	3.4		
		課題と方策	新体力テストの結果をふまえ、課題を体育の授業や部活動での体力づくりに生かす。			
		教職員は(学校は)、保健体育や部活動を通して健康や体力の向上のための指導をしている。(体育祭練習・陸上練習・駅伝練習等を含む)			3.6	3.4
	健康な心身の育成	実践目標	毎月困ったことカードを実施したり、定期的な教育相談の時間を確保したりする。	教職員	生徒	保護者
		成果	いじめ等の事案を早期に発見し、組織的な対応ができた。生徒の生活の様子を見守ることができた。	3.6		
		課題と方策	生徒の細かい内面まで観察できるようにする。			
		教職員は(学校は)、日常生活や教育相談等で、親身になって話を聞いたり相談にのってくれたりしている。(学習計画帳点検、悩みアンケート、日常的な教育相談、教育相談週間、スクールカウンセラーによる相談等)			3.5	3.4
	危機管理の充実	実践目標	警察や保護者と連携して、交通安全教室や交通立ち番指導等を実施する。	教職員	生徒	保護者
		成果	学校と保護者、関係機関等が連携して安全管理に取り組んでいることで、生徒は事故が無く学校生活を送っている。	3.7		
		課題と方策	事故の予防や未然防止のため、安全に関する啓発活動を計画的に実施する。			
		教職員は(学校は)、交通事故等がないように安全安心を確保するための指導をしている。(交通安全教室・集会やST時の話、登下校指導等)			3.6	3.4

令和元年度 東条中学校 学校評価（年間）

4・・・よくあてはまる 3・・・ややあてはまる 2・・・あまりあてはまらない 1・・・まったくあてはまらない

※生徒・保護者の評価結果は、生徒・保護者アンケート質問項目にもとづいたものです。

評価項目	実践目標	成果	課題と方策	教職員	生徒	保護者	
				評価	評価	評価	
小中の学びのつながり	学習習慣の定着	公開授業（合同研修会）等を通して、児童生徒理解や教職員の相互理解を深める。		教職員	生徒	保護者	
		各校の学校オープンや各教科ごとの授業研究会に参加することで、小中学校間の授業交流を進めていく。		3.3			
		「家庭学習のすすめ」等小中学校が連携して取り組んでいることを継続し、小中一貫校開校に向けてさらに連携した取り組みを進める。					
		教職員は（学校は）、学習習慣や家庭学習の定着のための、アドバイスや指導をしている。（学習の手引き・成績のあゆみ・学習計画やしおり・STやHRでの話等）			3.5	3.4	
	相互授業参観の充実	学校行事や学校オープン等で児童生徒間交流の機会を設ける。		教職員	生徒	保護者	
		管理職や各担当が交流することで、小中のつながりをより円滑に進めるための手立てが明確になった。		3.3			
心通う集団づくり、積極的な生徒指導	教師の協働した指導や支援	SCやSSWを含めた校内生徒支援体制（ケース会議や学年会議）を充実させ、福祉・医療機関等と積極的な行動連携を図ることで、不登校生徒を減少させる。		教職員	生徒	保護者	
		定例会議やケース会議の中で、個別の支援方法を具体的に話し合い、医療機関などへの連携を図ることが出来た。		3.6			
		医療機関が近隣に少なく予約が取りにくい、受診までに時間がかかる。保護者の理解が得られにくいケースがあるので、SCやSSWなどからのアプローチも積極的に行いたい。					
		教職員は（学校は）、学習習慣や家庭学習の定着のための、アドバイスや指導をしている。（学習の手引き・成績のあゆみ・学習計画やしおり・STやHRでの話等）			3.6	3.4	
	生徒の内面理解と人間関係づくり	QUテスト等を活用して、生徒の内面理解に努め、構成的グループ・エンカウンター等を活用した人間関係づくりを計画的に実施する。		教職員	生徒	保護者	
		夏季休業中に講師の方に来て頂きQUを活用して学年ごとに生徒の内面理解やこれからの学級経営について考えることができた。		3.0			
		各学級においてグループ・エンカウンター等を取り入れたり、教育相談等を利用して引き続き、学級や生徒についての内面理解に取り組む。					
		教職員は（学校は）、生徒をよく理解し、「つながりとまとまり」のある集団をつくらうとしている。（修学旅行、大阪校外学習、スキー教室等の学年行事、縦割り活動、生徒会活動等）			3.6	3.4	
	ネットトラブル等の課題の克服	ネットトラブル等の人権課題を克服するため、市内4校生徒会が主体となって作成した市内統一や東条中独自のネット。SNS利用規約の遵守を徹底する。		教職員	生徒	保護者	
		本年度も、生徒会が主体となって加東市中学校SNS5か条をもとに様々な形で啓発活動を行い、意識付けができた。		3.0			
		利用規約を遵守できない生徒がいること、家庭でのルールが合致していないことが課題。現在の活動を続けていくとともに、家庭を巻き込んだ活動も行う。					
		教職員は（学校は）、ネットトラブル等のトラブルに巻き込まれないように、話や指導をしている。（道徳、集会時の話、情報教育講演会、SNSルール等）			3.2	3.1	
特別支援教育	一人一人の教育的ニーズに応じた適切な支援	個別の教育支援計画等の計画的な見直しを実施し、本人・保護者の願いを中心に据えて、ライフステージに応じたきめ細かく適切な支援を行う。		教職員	生徒	保護者	
		サポートファイルの支援目標や手立てについて学年で話し合いを持ち、それぞれの生徒の特性を理解し、支援に努めることができた。		3.3			
		支援を必要とする生徒が増えるなか、それぞれのケースに応じた支援をおこなうために、サポートファイルをさらに充実させ、有効活用するための方策を検討したい。					
		教職員は（学校は）生徒の内面理解に努め、一人一人の特性に応じた支援や指導をしようとしている。（家庭訪問、三者面談、ユニバーサルデザイン、サポートファイル、通級指導等）			3.4	3.3	
	交流及び共同学習の推進	交流学級や他校生徒との交流及び共同学習を積極的に実施する。		教職員	生徒	保護者	
		市内中学校や校区の小学校との交流会に積極的に参加し、交流を深めることが出来た。		3.1			
	切れ目のない生徒支援	加東市発達サポートセンター「はびあ」と連携した切れ目のない生徒支援・家庭支援を行う。また、デリコラ（巡回相談）等を積極的に活用する。		教職員	生徒	保護者	
		サポートファイルの活用についての指導を受けるなど、「はびあ」との連携を進めることができた。		3.1			
	働きやすい職場環境づくり	生徒と向き合う時間の確保	学校の業務を整理し、役割分担、適正化を着実に図る。		教職員	生徒	保護者
			各担当から早めに提案することで、見通しを持って各業務にあたることができた。		2.6		
行事や分掌で業務内容を見直し更に効率化を図ることで、生徒にじっくり関わる時間やゆとりの確保に努める。							
教職員は（学校は）、日常生活や教育相談等で、親身になって話を聞いたり相談にのってくれたりしている。（学習計画帳点検、悩みアンケート、日常的な教育相談、教育相談週間、スクールカウンセラーによる相談等）					3.5	3.4	
定時退勤日		働き方改革を推進するため、毎週1回の「定時退勤日」を保護者等へ周知するとともに、教職員の共通理解のもと、確実な実施を推進する。		教職員	生徒	保護者	
		全教職員が各自の働き方を見直すきっかけができ、勤務時間を自己管理しようとする気運が生まれた。		2.7			
ノー部活デー		行事に向けた取り組みや複数の校務分掌を兼任することによる業務の負担を軽減させるために、業務の精選や削減に取り組む。					
		練習計画表を校内に掲示することで、生徒や教職員に周知を図り、「ノー部活デー」を確実に実施する。		教職員	生徒	保護者	
		各顧問が翌月の部活予定表を確実に作成し、ノー部活デーの確実な実施に向けて積極的に取り組んだ。		3.8			
		平日1日、休業日1日のノー部活デーの定着を図るために、より計画的な部活動運営を進めて行く。					